

大東文化歴史資料館だより

第9号 2010. 11. 30

大東アーカイブス 第10回 企画展

大東の歴史を彩る
書の巨匠たち 展

展示期間：平成22年11月1日(月)～平成23年3月31日(木)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)

—— 今回の企画展は第10回という区切りでもあることから、「大東と書道」をテーマとして書道研究所の全面協力を得て開催することとなりました。大東の歴史の中にある書の芸術と学問との交わりを感じていただければ幸いです。



本学は創立以来、東洋学術文化の振興を主旨とした教育機関であることから、その付帯文化である書道がいち早く重視された。特に昭和31年(1956年)には、教授・卒業生・在校生による「書道学会」の発足により、全国的な展覧会で会員が続々と頭角を現す。また時期を同じくして、本学書道の更なる道づくりの一環として、書道実習科目の強化による高等学校書道教員志望学生の向上、および日本文学科・中国文学科の専門学力を背景にした講座編成強化を図るため、社団法人日本書道連盟との共催による「書道公開講座」が開設された。本講座は、当時の書道界屈指の教授陣を網羅したことにより、その内容は全国の書道関係者に広く知られるようになり、学生の教育と充実を併せ「ひろく大学教育の門戸を開放」したことにより、書道教育の大いなる発展の基礎が創られた。

この発展の基礎を受けて、本学は昭和33年(1958年)の池袋校舎への移転による新制大学として再出発を機に、書は「中国学との兼修」をさらに深化させるべく、書道分野教授陣の充実が図られた。書学の加藤常賢先生(文字学)・眞田但馬先生(書論題跋・書道史)をはじめ、実技には当時の日本書道界を担う一流の書作家、山崎節堂教授・熊谷恒子教授・松井如流教授・青山杉雨教授・宇野雪村教授・上條信山先生(非常勤講師)らが名を連ね、確かなる書道教育の基盤がここに構築され、昭和42年(1967年)一東松山校舎開校による書道の組織化への気運の高まりに繋がっていく。

組織機関設立にかかる準備作業は、当時、青山杉雨(文雄)教授と永井暁舟(敏男)講師(のち助教授を経て教授)が中心となって推進され、これを松井如流(郁次郎)教授(のち名誉教授)と今関脩竹(茂)講師(のち教授)が側面から支えた。その結果翌昭和44年度(1969)年4月より、「大東文化大学書道文化センター」を開設することが理事会で承認され、以後、ここが本学書道の学内外への窓口となって、書道に関わる芸術文化事業を全国的に遂行することになり、その実績を基盤に昭和63年(1988年)には、従来の組織を「書道研究所」へ改組した。そして、2001年には本学で書道を学んだ多くの卒業生の念願であり祈願であった、全国初の「文学部書道学科」が誕生した。

本展は、昭和31年(1956年)の池袋時代から昭和42年(1967年)の東松山校舎開設を経て、平成12年(2000年)の書道学科開設から今日までの期間にスポットをあて、その期間に活躍された本学書道教員の先生方を二期に分けて、書作品を通じて本学の書の歴史的な背景を少しでもご確認いただきたく、ここに纏めてみた。ご観覧いただけたら幸甚である。

今後は、創立当時から書学の中心として実績を残された、神田喜一郎先生(金石学担当)・西脇玉峰先生(説文解字担当)や・池袋時代の加藤常賢先生(文字学担当)・眞田但馬先生(書論題跋・書道史担当)などの学術資料の収集を行い、調べて継続的な展覧が開催できるよう努力していく所存である。



【Part I】

平成22年11月1日(月) — 平成23年1月14日(金)

(作家名)・松井如流・熊谷恒子・青山杉雨・宇野雪村・上條信山・今関脩竹・伏見冲敬・永井暁舟・古川悟・野口白汀

【Part II】

平成23年1月17日(月) — 平成23年3月26日(土)

(作家名)・今井凌雪・東山一郎・村上翠亭・久米公・清水透石・新井光風・田中東竹・田中節山・玉村霽山

(書道研究所事務長・書道学科兼任講師 宮里 司)